



Associação Crianças de LUZ

CANOVA

だより71 January 2023

文・写真_鈴木真由美 編集_星久美子・稲垣由紀 発行_光の子どもたちの会
Praia do Estevão s/n, Canoa Quebrada, Aracati-CE-Brasil CEP:62800-000
連絡先: info@criancasdeluz.org



寒さもいちだんと厳しい今日この頃ですが、皆様はどのような新年を迎えられたのでしょうか。

2022年はコロナ禍を経て厳しい財政状況の中、2000年から続けてきたカノア保育園及び学童教室の継続が危ぶまれました。皆様に回答いただいたアンケートをもとに、「光の子どもたちの会」として今後どのような活動を行っていくべきかを熟考させていただきました。ブラジルの現地スタッフ、日本のスタッフと何度も話し合い、最終的にはカノア保育園及び学童教室の活動は継続していくこととしました。そのための条件として、

「ブラジルにおいても募金やマンスリーサポーターによる支援、イベント等の開催を通じて、最低でもブラジルの教職員1人分給与を賄えるだけの資金を調達する。」としました。

資金を調達するといっても簡単なことではありません。カノア保育園の卒園生である“ISABEL（イザベル）”による資金調達のためのワークショップの定期開催や、Tia EVA（エヴァさん）のアイデアや指導を受けながら、実施していく予定です。

さて、どうなることやら。今はまだ、現地のスタッフの中に運営を任せられるような人材は育っていません。（育てた人材は自分の力を試したいと、残念ながらエステーヴァン村を離れてしまいました…）そんな中での新たな取り組み。日本においても、継続的なイベントの開催や日本国内における講演会や報告会のみならず、新たな資金調達の方法を探していきます。それでも、エステーヴァン村にとってカノア保育園や学童教室がどれだけ重要なものであるかを再認識できたことで、地域住民の力を借りながら努めていきます。

★新たなイベント等の資金調達のための

アイデアや企画を募集しています★

連絡先:光の子どもたちの会 日本事務局

FAX 045-594-5830

E-mail info@criancasdeluz.org

ドイツに暮らす卒業生からのメッセージ

翻訳: 鈴木真由美

以前にも紹介したドイツで保育士として働くヴィヴィアーニからメッセージが届きました。彼女はカノア保育園の卒業生。村で初めての国費留学のチャンスを手にし、高校卒業後にドイツへ渡りました。生まれ育った村のために何かできないかと、今ではドイツにいらながらも、村の人々と連絡を取り合い、できることを探り続けています。(ラッシュュジャパンチャリティーバンクの支援を受け、実施しています。)



里帰りした時に村の若者たちと
(右から二番目上がヴィヴィアーニ)

Viviane Andrade

(ヴィヴィアーニ・アンドラージ)

エステーヴァン村で子ども時代を過ごすことができるなんて本当に素晴らしい。素晴らしすぎる！でも残念ながら、いつまでも子どもでいることはできません。私たちは大きくなります。私たちはより良く健康的な成長を遂げていくために、異なる(様々な)刺激が必要となってきます。

思春期になると、青少年の心と体は変化していき、そのためには周囲の支えが必要となります。私は今ドイツに住んでいますが、最近エステーヴァン村に滞在する機会がありました。そのとき、真由美もビデオ通話で参加することもありましたが、青少年たちとたくさん話をしました。彼らが毎日どんなことをして過ごしているのか、どんなことに興味があるのか、彼らから直接話を聞いたのです。エステーヴァン村に住む多くの青少年は家族と一緒に住み、学校に通っています。(このことは、以前に比べてとてもよくなった部分だと感じています。)そのほかの自由な時間は、スマホを眺め、SNSに没頭しているようです。

私の勝手な意見ですが、自由な時間こそ、青少年は現実の中で様々なことに触れ、多くの経験をするべきだと思っています。なぜなら、この時期に得た多くの経験が、人生の中で大人になり、自立するための準備の一つであると考えているからです。残念ながら青少年がこうした経験を積めるような場所や団体は今、エステーヴァン村の中にはありません。私の視点ですが、青少年たちは何か自分たちで行えるような活動が必要なのではないでしょうか。自らアイデアを出し、行動できるようなそんな場所が今、必要なのだらうと強く感じています。



中学3年生のブラジル一人旅



鈴木真琳です。現在中学3年生です。

11月11日から12月20日までの約1ヶ月間ブラジルにいました。

その間、Crianças de LUZ（光の子どもたちの会の現地法人）の学童教室で先生の助手として少しの間お手伝いさせてもらいました。最後にブラジルにいたのは小学6年生のときだったのですが、3年近くが経っていても、生徒の何人かは私のことを覚えていてくれたので、初日からクラスに馴染めた気がします。

普段は一緒に遊んだりすることを中心に過ごしていました。クリスマス会が近くなり、私を先生としてリコーダーの練習が始まりました。初めから得意な子、不得意な子に別れてしまい「もうやりたくない」「つまんないから違うことしていい？」などと言いはじめの子が出てきてしまいました。それぞれのペースになるべく合わせられるように得意な子のグループ、苦手な子のグループに分けて練習をしました。私は得意な子のグループを担当しました。得意な子たちは楽しいのかどんどん上達し、最後の方には他の曲を教えたりすることも出来ました。苦手な子は学童教室の先生が少しづつ教えてあげたことで、ゆっくりのペースですが曲を吹けるようになりました。発表は得意だった5人しか出られませんでした。リコーダーに興味を持ってくれる子が増えてくれて良かったです。

学童教室を手伝って、先生の凄さを知れました。生徒をまとめることは難しく、特に一人ひとりの個性が強く、ひとつの指示を出してもみんな違うことをし始めたり、飽きてしまいどうしようも出来なくなってしまう子もいました。そんな子ども達をまとめている先生は凄いなと思います。私はまだ14歳なので、子ども達からは自分たちと同じ生徒のように見られていたと思いますが、そのおかげで先生たちと違う目線で子ども達と触れ合ったり、考えを共有出来たのではないかと感じました。それはそれでよかったかなと思っています。

さて、3年ぶりに帰国したのですが、いい意味で景色はあまり変わっておらず嬉しかったです。

家にこもってゲームしたりスマホをいじる子が何人かいたもののほとんどの子どもは午後は木の上にお家を作って遊んだり、サッカーを楽しんだりしていました。サッカーをするコートは明るく照らしてくれる街灯が取り付けられ、夜でもサッカーを楽しめるようになりました。そのおかげで夜に仕事から帰ってきた大人や子どもがサッカーをして遊べるようになりました。村全体の穏やかな雰囲気は変わっておらず、凄く楽しい日々が過ごせました。正直日本に帰国したくはありませんでしたが、高校への準備もあるため帰国せざるを得ませんでした。なのでなるべく早く、また私の大好きな故郷に帰れる日が来ることを心の底から願っています。そして家族4人でまた過ごせる日が来てくれることを願っています。

※鈴木真琳は当団体代表である、鈴木真由美の二女です。(写真右上)



国内活動＊Atividade no Japão

新しいイベントの形にチャレンジ！
SDGsみなと喫茶にて座談会を開催しました



「フルリーナ × SDGsよこはまCITY SDGsみなと喫茶 ～ブラジルの風を感じる～」と題して、2022年12月17日（日）10:00～18:00、横浜市にある泰生ポーチ（みなとみらい近く）にて座談会を開催しました。当団体の代表で、保育士の鈴木真由美の著書『ブラジル～天使が舞い降りる村のカノア保育園～』をもとに、ブラジルでの生活、「光の子どもたちの会」の活動や子育てなどについて話をさせていただきました。

神奈川県内で活動している国際NGOの人達と、現在のNGOの在り方や、運営や財源確保の難しさを話し合える機会となり、新たなイベントの形として素晴らしい機会となりました。フルリーナの皆様、SDGsよこはまCITYの関係者の方々に心より御礼申し上げます。

今後もこうした新たな取り組みにも積極的にアプローチしていけたらと考えているので、ご興味のある方はぜひご参加ください！！



かながわ民際協力基金による事業が開始されます！！

2018年にJICA草の根技術協力事業の第2フェーズが終了し、秦野市教育委員会の支援を受けながら、第3フェーズの事業開始へと繋がっていく過程で、教育、中でも妊産期から乳幼児期の子ども、そして子育て支援という当団体の強みを生かして何かできないかと考えるに至りました。そこで、「秦野市及びその周辺地域における外国につながる未就学児及びその家族に対する支援プロジェクト」として、2022年10月から2023年9月までの1年間、事業をを実施していくこととなりました。今回の事業では、秦野市及びその周辺地域において、外国につながる未就学児及びその家族を対象とした問題や課題の改善を目的とした定期的な相談や幼児クラスの開催などをおこない、地域住民に周知を図り理解を深め行くことを目指しています。また、外国につながる未就学児やその家族の現状を把握するための調査も実施していく予定です。

クリスマスメニューでブラジル料理つくりました！



12月3日、2022年2回目のブラジル料理教室を行いました。今回は、クリスマス料理ということで、鶏肉料理と豚肉料理どちらがいいかを事前に参加者にアンケートをとり、リクエストの多かった豚肉料理を作りました。小学生Kくんの活躍もあり、みんなで和気あいあいと楽しく料理できました。会食中は、クリスマスプレゼントタイムも！カノアのポストカードや写真たて、ラビリントを景品にあみだくじで盛り上がりました。



今回は運営側の不手際で開催日を誤って告知してしまいました。そのため、参加を予定して下さった9名の方がキャンセルとなりました。誠に申し訳ございませんでした。参加を予定して下さった方々には、後日レシピとチョコレートを送らせていただきました。今後このようなことが無いように、気を引き締めて参ります。次回は2月5日(日)開催予定です。皆様のご参加お待ちしております！

【報告者：梅本祥子】



「行き場を失った若者たちの居場所作り」 LUSH JAPANチャリティバンクによる支援

「行き場を失った若者たちの居場所作り」として、LUSH JAPANチャリティバンクから助成金を頂き、2022年8月～2023年7月の1年間の事業が開始されました。

2020年、新型コロナウイルスの影響により、カノア保育園の卒園児が続けて自死を選ぶなど、10代の若者の孤立が深刻化しています。2022年現在においても、ブラジル国セアラ州アラカチ市における10代の若者たちの自殺者が増加していることを受け、若者たちが集い、気軽に相談できる場所を作ることを目的とし、本事業を実施していきます。若者たち自らがその居場所を作り、持続的な場所とすることを目指していきます。

まずカノア保育園卒園生の2人、Viviane（ヴィヴィアーニ P.2で紹介）、Isabel（イザベル P.8で紹介）を中心に対面のみならず、オンラインの集まりやワークショップを実施していきます。

<ご報告>

任意団体としてスタートした「光の子どもたちの会」を2006年の設立から日本事務局長として支えてくれていた堀池眞輔氏が2022年12月16日に亡くなりました。享年79歳。

次号では感謝の気持ちを込めて追悼ページを予定しています。2021年11月に日本事務局を退かれてからも当団体を気にかけ、心配して下さっていました。これからもその意思を引継ぎ、「光の子どもたちの会」として活動に慢心していきたいと思えます。

心よりご冥福をお祈りいたします。

カノアニュース*Novidade em Canoa

クリスマス会 Festa de Natalを開催しました！



2022年12月16日にクリスマス会が開催されました。

今回のテーマは、「地域と共に」。

コロナ禍を経て、私たちは自分たちの活動、保育園や学童教室の存在意義を突きつけられ、本当にこの村に、この地域に、私たちの活動は必要なのだろうか？何度も話し合い、保護者の方や地域の方を読んで話し合いを重ね、そして出た結論は、「こんなに大切なものはない。地域一体となって活動を持続させていこう！！」というものでした。今までのクリスマス会でも、事前にバザーを開き、その収益でクリスマス会に必要な食材や物品、子どもたちのプレゼントを購入していたのですが、今回もバザーを開催。そして当日も、保護者や地域の人たちの出店があり、その収益を保育園や学童教室の運営費にしてくださいと、全額寄付してくれました。

保育園の子ども達はクリスマスの唄を披露し、学童教室の子ども達は劇を行いました。

私たちは一人ではない。こんなにもたくさんの人たちに囲まれ、笑顔がたくさんある場所なのだということを実感できたこのクリスマスの日。

2023年も皆様にとって笑顔溢れる1年となりますこと、心より願っております。



子どもたちによる演劇の様子



日本から届いたリコーダーで演奏しました

子育て日記より

2022年12月31日。我が家は大掃除。長女と二女も担当を決め、掃除を開始。電気の傘の掃除をしていた次女が、長女に渡してつけようとする、なかなか傘がはまらない。何度か試し、頭に落としながら、ようやく取り付けることができました。そんな中、二女は「どうしよう」「できない」といいながらワイワイ。そんな姿を見ていた長女が一言。

「失敗してもいいからやってみなよ。その内指先の感覚が養われて、すぐに取り付けられるようになるよ。こういう事も生き方の一つになるんだから」

電気の傘を取り付ける。ただそれだけのことにも関わらず、人生に結び付ける長女。恐るべし。

ありがとうございます＊Obrigado

2022年6月21日～2022年12月20日現在までに会費及び寄付を頂きました皆さま及び物資支援を頂きました皆さまのお名前を下記に記載いたしました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

「#今できること」として、現地では12月10日にクリスマスバザーを開催しました。

引き続きご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

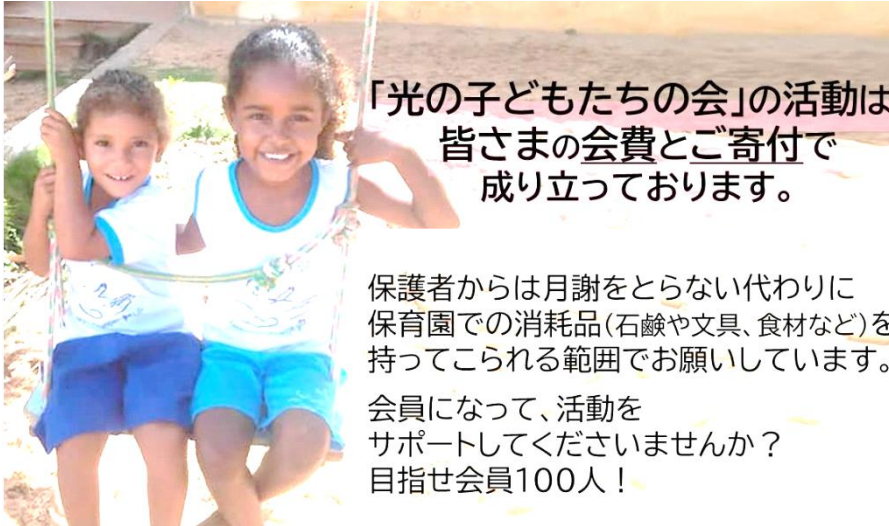
目標会員100名！！

会費及び寄付を頂きました皆様(順不同)

上田祐華 さま、鵜澤聡明 さま、大川智子 さま、金本りせ子 さま、定形澄江 さま、瀧川佐和子 さま
長谷川宏 さま、馬場悠男 さま、前田将史 さま、馬上隆一 さま、山下万喜子 さま、吉野八重 さま

会費及び寄付を頂きました皆様

大川智子 さま、藤田浩子 さま、藤本夏実 さま



会費・ご寄付の
振込は
STORESから
できます！

<https://criancasdeluz.stores.jp/>

くわしくは
こちら！



年会費(5,000円)・ご寄付のお振込み方法

1. 自動引き落とし

お持ちの口座の金融機関で手続きができます。引き落とし日、金額をご指定いただけます。尚、ゆうちょ銀行からお振込の場合は以下の【2. 郵便振替】と同じ口座番号ですが、他金機関からの振込の場合には、【3. ゆうちょ銀行振込】の口座番号となりますのでご確認ください。

2. 郵便振替

口座番号 00280-1-41787

加入者 光の子どもたち・カノアの活動を支える会

3. ゆうちょ銀行振込

名義 光の子どもたちの会 店名 ○ニハ(ゼロニハチ)

店番号 928 普通 口座番号 5552594



<http://criancasdeluz.org/inicial/index.jp.html>

問い合わせ先:

代表 鈴木真由美 / 日本事務局 藤田枝美

〒223-0056 神奈川県横浜市港北区新吉田町5338-23

FAX 045-594-5830 info@criancasdeluz.org

エステーヴァン村で生まれ育って ～若者の語り Isabel&Miria～

「ブラジルと日本の若者が問う、私たちの昔と今、そして未来」と題して、カノアで生まれ育った二人の若者によるYouTubeを配信中！ぜひご覧ください！全編ポルトガル語、日本語字幕付き。登場した二人に今回のリモートトークについて振り返ってもらいました。

Isabel Rocha (イザベル・ホーシャ) :

美莉亜との語りは、人々の将来にとって青年期がどれほど心配事であるかを再認識することができ、またこうした語りは、いつも自分に向き合い、自身を知るための一つの方法であると感じました。言葉というのは多くの場合、大きな壁だと常感じていたけど、それ以上に同じように考えているのだという安心を得ることができました。

今回の語りは本当に幸せでした！！美莉亜とはずっと一緒に生きてきたけど、今回初めてこうした話ことができました。たぶん、私たちはまだ幼く子どもだったので、生きていく中での心配事というのを感じていなかったのかもしれない。だから今日、私たちは青年となり、生き方を共有し、自分たちの経験や体験から新しいアイデアを生み出そうとすることができたのだと思います。

青少年が自分の問題を吐き出し、夢やアイデアを語り合い、それを実現させようと力を合わせるような、そんな時間が本当に大切だと考えています。



若者の語り_Isabel&Miria

<https://youtu.be/ceT0coqswa0>



ぜひ見てね！



鈴木美莉亜 (すずきみりあ) :

エステーヴァン村で生まれ育った人同士で村から出た後にしか見えなかった社会問題について語り合うことができ、高校生活で1番と言えるほどとても貴重な体験をすることができました。今回はリモートでしたが、いつか直接村の人たちと会い、他の青少年たちともこのような話ができたら良いなと思っています。

※当団体代表、鈴木真由美の長女です。